姫路市立水族館
資料 No. 3

# オーストラリアのタイマイ養殖
# Turtle farm industry in Torres Strait

Itaru Uchida
Himeji City Aquarium

Reprinted from KAGAKU ASAHI: Monthly Journal of Science Jan. 1974
No 394 pp 14~17

≪科学朝日≫
1974年1月号抜刷

# べっ甲用に
# タイマイ養殖
## ——豪州で原住民が事業化へ

1年半の飼育で大きくなったタイマイを，誇らしげに見せるサンゴ礁ステッフェンス島の村長さん。

やーい，えさの時間は，まだなのかーい！

オーストラリア・クインスランド州のトレス海峡に点在するサンゴ礁の島々で，海ガメの1種タイマイの養殖が始まっている。

タイマイのこうらは，べっ甲の原料。くし，眼鏡のふち，カフスなど高価な装飾品になるので，オーストラリア政府の音頭取りで，原住民たちが事業化に1歩を踏み出したのである。

先ごろ，私が訪れたときには，30の養殖施設（ファーム）で約8000頭を飼育していたが，行く行くは1200ファームに増やすことを目標にしている。

現在，世界中で人間に殺されている海ガメ類は，年間100万頭に達すると推定されている。欧米ではアオウミガメをスープやステーキにする。1973年2月，ワシントンで開かれた野生動植物の保護条約会議で，大西洋の海ガメのうちで，とくにべっ甲の原料として重要なタイマイは，国際的に商取引を禁止することが決まった。また太平洋のタイマイ，アオウミガメ，アカウミガメについても，輸出国の許可証が要ることになり，海ガメ類の衰亡はやっと国際的な問題として取り上げられることとなった。

人工ふ化，人工養殖は資源維持の積極策の1つとして，今後，重要になってくるだろう。

**写真と文・内田　至**（姫路市立水族館長）

浜に建てられたウミガメ養殖場。（タートル・ファーム）

ブリキでできたタンクの中で育つタイマイの赤ちゃん。砂の中でふ化してから約4カ月で，甲長は約10㎝。たいへんないたずらっこだ。

ファームの中は超過密。でも原住民たちのゆきとどいた世話で、病気知らずに成長する。

うまい木陰さえあれば，養殖の立地として十分。水の交換やえさ集めは人海戦術で当たるので，どんどんファームが増やせる。

タイマイは成長が早い。1年半で35㎝ほどになる。と，こんどは金網のかごに入れられ，海中で養殖される。

毎晩，ファームの持ち主と指導者ロバート・バスタード博士（向こう側の中央）が会合して，技術上の問題点などを熱心に話し合う。博士の右隣りは筆者。